令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐山高等学校　　学校番号　4

Ⅰ　自己評価

<table>
<tr><td>1　学校教育目標</td><td colspan="3">教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人物を育成するため、次の教育目標を定めてその実践を期する。
⑴ 「躍進岐山」の意気と誇りをもて
⑵ 全力を尽くして学業に励め
⑶ 礼儀正しく思いやりのある人となれ
⑷ 強健な心身をつくれ
上記、教育目標の達成を目指すとともに、理数科設置校としての本校に課せられた社会的使命や、生徒全員が進学を志していることに鑑み、その自己実現を図るよう、創造性に富んだ明るく活力ある学校づくりに努める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2　スクール・ポリシー</td><td>『育てたい生徒像』
グラデュエーション・ポリシー（GP）</td><td>『生徒をどう育てるか』
カリキュラム・ポリシー（CP）</td><td>『どんな生徒を待っているか』
アドミッション・ポリシー（AP）</td></tr>
<tr><td>・社会の一員としての自覚と責任をもち、リーダーとして地域や社会に貢献できる生徒
・強い心身をもち、困難をも克服できる生徒
・科学的な考え方と手法を身に付け、主体的・論理的に課題解決ができる生徒</td><td>・探究的な活動を通して、物事を考察、判断、表現する力の育成
・実践的な「知識・技能」が習得できるカリキュラムの編成と科学的視点と言語活動を重視した授業の実践
・諸活動を通して自己理解をし、自己実現ができる支援</td><td>・学業に主体的に取り組む意欲のある生徒
・主体的に自己を見つめることができる生徒
・校内外の活動に取り組む意欲のある生徒</td></tr>
</table>

3　評価する領域・分野	◇教務
4　現状の分析	○熱心に学習指導や生徒指導などに取り組み、豊富な専門的知識により内容に信頼のできる授業を行える教員が多い印象をもたれている。 ▲学習の消化不良と定着不足により、学習に意欲的に取り組めない生徒がいる。また自ら発展・応用的な学習に取り組む姿勢が弱い。
5　学校の抱える課題	◇生徒が自ら考え、自ら学ぶことで学力が向上できるように、授業を中心とした学習指導を充実させる。 ◇高校入試において定員を満たすようにする。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科の授業や探究の時間等を通して「知識の獲得」と「知恵への昇華」を図ります。 ◇科学の視点と言語活動を重視した授業を展開します。 ◇岐山高校を認識してもらうため、広報活動を行います。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) より良い学習習慣の確立と基礎・基本の定着を目指します。 (2) 学習の到達度に応じた指導を組織的に行い、応用力・実践力を育成して学力の伸長を目指します。 (3) 教科授業と探究の時間等の連携を図り、生きて働く「知識・技能」の習得を目指します。 (4) 科学の視点と言語活動を重視した授業を展開するため、授業研究や教材開発を行います。 (5) 全教科で取組の分析や課題、方策の検討会を行います。 (6) より伝わる学校案内を作成し、中学生や保護者向けの高校説明会等を適切に実施して岐山高校を正しく認識してもらいます。	(1) 予習や課題の取組状況により判断し、提出状況や事後指導は100%を目指す。 (2) 生徒による授業評価並びに家庭学習時間の調査より評価する。授業に対するアンケートでは５段階評価で4.0以上を目指す。 (3) 授業参観等の交流や研究授業の実施を通して、授業改善と研究実践の蓄積を行う。 (4) アンケート等を利用して昨年との比較をする。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定めた。	①指導体制が機能し、評価基準を確認しながら取り組めたか。	A　[B]　C　D
・授業研究期間等の公開授業の参観を通じて、授業力向上に努めた。	②職員の共通理解の下、組織的に取り組めたか。	A　[B]　C　D
・学校案内を改訂した上で、中学生向けに高校見学会を実施した。	③参加者数、参加者からのアンケートによる評価。	A　[B]　C　D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定め、全校体制で取り組むことができた。加えて授業研究期間を定め、教員間で授業参観の機会を設けることで、授業力向上を図ることができた。 ○学校案内をさらに改良することができた。中学生向け高校見学会（参加生徒数 700 名、R03 年度 713 名）を実施し、在校生の参加や模擬授業などの内容で実施した。アンケート結果からは本校に対する好印象を得た。 ▲本校の全体の仕組みを変更していく中で、今までの既成概念のとらわれず、新たな考え方で活動していく必要がある。今後も生徒に対してどのようなことができるのか模索し、また持続可能な形にするために、さらなる働き方改革の進めるなどの課題がある。	A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・学力不振者に対する指導。各教科、学年会で生徒の状況について情報を共有し、ＨＲ担任、教科担任で働きかけをして、生徒一人一人に学習課題をもたせ学力の伸長を図る。
・現在の様々な状況を踏まえた上で、業務の運用の見直しを検討していく。
・渉外部、事務部と協力しながら、新校舎に関わる内容について対応する。

3　評価する領域・分野	◇生徒指導
4　現状の分析	○生徒の様々な問題行動は、夏休み以降徐々に減少し、学校生活全体が落ち着いた環境にあると思われる。 ▲情報モラルに関する大小様々な問題は、水面下で常に発生していると考える必要があり、今後も継続して情報モラル教育を推進する必要がある。
5　学校の抱える課題	◇校則の在り方に対する考え方の、職員及び生徒、そして保護者との共通理解を図ること。 現代、そして、今後確実に訪れるであろう身近な国際化社会を考えた人間教育の必要性を、職員と保護者が共通認識し、その考えに即した校則等の見直しが必要である。 ◇授業規律と挨拶を大切にしたコミュニケーション能力の低下。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇全職員の共通理解と連携に基づき、生徒一人ひとりをより深く理解し、基本的生活習慣の確立を図ります。 ◇支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努めるとともに、組織的に対応します。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 集会時や交通安全指導時に、制服の着こなし方や遅刻の指導、情報モラルや交通規則に係る指導を全職員の共通理解のもと実施し、生徒の生活規律を整えます。	(1) 生徒の身だしなみが整い、基本的生活習慣や情報モラルが身についたか。
(2) 予防的・啓発的生徒指導に努め、ＭＳＬ活動やボランティア活動により生徒の自主的・自発的活動を支援します。	(2) 生徒・保護者に対して啓発活動が活発になされ、積極的な生徒指導ができたか。
(3) 生徒理解連絡会、ケース会議、特別支援会議、学校いじめ防止等対策委員会、専門家を交えた校内研修等で、支援を必要としている生徒について、職員間で情報共有と共通理解を深め、適切な支援方針を検証します。	(3) 支援を必要とする生徒について、分析・検討を重ね、職員間で情報共有と共通理解を図り、それを踏まえた対応ができたか。
(4) 支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーターに加え専門分野の関係者（機関）と連携を密にして校内支援体制の充実を図り、組織的に対応します。	(4) 生徒理解のための情報共有と関係者との積極的な連携が図られ、問題行動の未然防止や早期発見、早期対応がなされたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・身だしなみや遅刻などの生活習慣の定着と情報モラル教育の推進。	①身だしなみが整えられ遅刻がない。情報モラルに関する問題行動が発生していない。	A　B　[C]　D
・予防的・啓発的生徒指導と、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動の支援。	②生徒・保護者に対して広く啓発活動ができたか。	A　[B]　C　D
・生徒理解連絡会、ケース会議、特別支援会議等、専門家を交えた研修等で、生徒情報の共有を図るとともに生徒個々の理解を深め、適切な支援方法を共通認識する。	③情報共有を適宜実施しているか。生徒個々に合った支援方法を共有できているか。	A　[B]　C　D
・支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーターが、関係機関と連携した校内支援体制を充実させ組織的に対応する。	④生徒理解のために積極的な連携がなされ、問題行動の未然防止・早期対応ができたか。	A　[B]　C　D

12 成果・課題	○学年会における情報を生徒指導部会等においても共有し、支援を必要とする生徒に対する方策を、組織的に協議・検討することができた。 ○校則の見直しを機に、生徒自身が「自ら考える力の大切さ」を理解し始めていると思われる。これは、各行事における生徒の主体的な行動から推測することができる。 ▲以前に比べると教育相談体制が充実したと思われるが、生徒の相談案件が確実に増加しており、教育相談係の負担が急増しているため、学校職員全体でその理解を深める必要がある。そして、全ての学校関係者が安心できる教育相談体制を構築するため、当該職員の授業時間数を減らす措置を講じるとともに、さらに専門的な知識を身に付けるための研修会等への参加を積極的に促したい。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

◇授業規律を全職員が再確認し、生徒の授業に対する姿勢を向上させるとともに、規範意識を育て交通規則等のルール順守につなげる。

◇挨拶と、その行為からつながるコミュニケーション能力の大切さを理解させ、進学先（大学等）を含めた社会で、個々の命を大切にしながら生きる力を育む。

3　評価する領域・分野	◇進路指導
4　現状の分析	○講演会やLHR等を利用し、少しずつ視野を広げた進路検討ができるようになってきた。 ▲学習の仕方がわからない等、学習に意欲的に向かうことが難しく、進路実現をするための学習の定着が課題である。
5　学校の抱える課題	◇保護者や生徒へ定期的な進路情報の提供。 ◇早期から進路実現を意識し、主体的に進路選択ができるような支援体制の確立。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇１生徒一人一人の能力・適性を十分に把握した自己実現達成への支援をします。 ◇具体的な進路設計と計画の実行への支援をします。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 探究活動の中に、進路研究や学問研究を積極的に取り入れることで、興味・関心の幅を広げ、社会生活の課題と学問を結びつけて考えられるよう支援します。それにより大学における学問及び研究活動に滑らかな接続を図ります。	(1) 各行事の有効性は、生徒の講座や講演会に対するアンケートにより評価する。
(2) 必要に応じて進路相談会を開催し、生徒個々の進路や入試形態に応じた個別指導を充実するとともに、期間を限定した柔軟な時間割運用によって効果的な学力向上を図ります。	(2) 特編授業や小論文指導の生徒の取り組み状況、家庭学習期間の登校人数により評価する。
(3) 模試等を利用し、細かく分析することで、個々の意欲や理解度を知り、それをもとに個に応じた学習活動ができる機会を提供します。	(3) 土曜講座や補習の申込人数や出席状況、また通常授業における参加者の意欲変化等教員間の情報共有により評価する。
(4) 進学指導重点校事業等を利用し、適切な時期に講演会や学習会を開催します。また、進路だよりにより様々な進路情報を提供し、進路実現に向けた早期の取り組みができるよう支援します。	(4) 講演会等のアンケートや進路希望調査により評価する。
(5) 各学年で適切な時期に校外模試を実施することで、自分の現在の学力を全国レベルで把握し進路選択に役立てます。	(5) 模試事前学習において各自が設定した目標偏差値を上回ることを目指す。学年平均偏差値及び度数分布で評価する。
(6) スタディーサポート（年１回）、進路希望調査（年２回）を実施して生徒の学習状況などの実態を把握し、それらを分析することで、個々に応じた家庭学習の充実や進路決定の支援をします。	(6) 回答内容や家庭学習時間の変化や比較により評価する。
(7) 各学年と連携を図り、学年集会や進路ＬＨＲを適切な時期に実施し、学年ごとの目標を確認することで生徒の進路意識の高揚を図ります。	(7) 進路希望調査内の進路意識に関する回答、スタディーサポートや模擬試験の結果を分析することで評価する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・進路を意識させるとともに、視野を広くもち、選択肢を広げるために、１～３年に向けてそれぞれ講演会を開催した。 ・小論文や志望理由書作成に向けて、「文章の書き方講座」「小論文講座」を実施した。 ・模擬試験にむけて、学習支援だけでなく、進路目標を明確にするためのLHR等意識づけを行った。	①目的を明確にし、生徒に有効な内容であったか。 ②今後の学習に生かせる内容であったか。 ③学力や進路意識の向上につながったか	[A] B C D A [B] C D A [B] C D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○選択の仕方の講演や１・２年生進路講演会等、早くから進路意識をもたせることで、視野を広げた進路選択につなげることができた。 ○保護者向けのオンライン講演会も実施し、現在の入試概要も含めて情報を提供した。アンケート結果より保護者の進路意識にも少し変化が見られた。 ▲進路希望調査では、学習時間が短くなっている傾向が見られた。進路実現のためには、日ごろの学習の積み重ねが大切であるという意識や、自分の進路実現のための見通しや計画とそれを実践していく力が必要であり、それらの力をどのように付けていくかが課題である。	A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・進路に関わる情報提供の時期や方法を工夫し、段階的に進路について考えられるようにする。学年や探究との連携を図り、適切な資料が手帰郷できるようにする。

・探究的な活動を進路選択にどのように生かすとよいのか、職員研修等で考えていく。進学指導重点校事業を利用し、職員の研修機会を増やす。

3　評価する領域・分野	◇特別活動
4　現状の分析	○生徒の主体性を大切にするという方針の下、生徒会がそれぞれの行事の計画・運営に責任を持ち、また学校生活の改善のための様々な取り組みを率先して進めている。自分たちが学校を動かしているという意識が芽生え、学校の諸問題に真摯に取り組んでいる姿勢が見られる。 ▲ホールムールの代表である生徒議会と生徒会の連携が不十分であり、全校生徒の考えがより民主的に反映された提案や活動となるように意識していかねばならない。 ○部活動は、活動時間に制限があることに加え、新校舎建設工事に伴って活動場所の確保に苦心している部活動も見られる。そのような状況でも、運動系・文化系問わず、東海大会や全国大会への進出などの成果を上げている。
5　学校の抱える課題	◇新校舎建設工事期における学校行事や部活動のあり方 ◇学校行事の精選と部活動の統廃合
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒会活動やＨＲ活動の活性化を図り、生徒の自主性や協働する力を育成する。 ◇短時間で効果的な部活動のあり方を模索し、進学校として学業との両立を図る。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 生徒が自ら考え、学校の様々な活動に積極的に参画できるよう、生徒会や各種委員会との連携を強化する。	(1) 生徒が、委員会やＨＲ等の活動に主体的かつ協力的に取り組むことができたか。
(2) 各行事が円滑に実施できるよう、先を見通して、計画的な準備と運営を行う。	(2) 各行事の企画を計画的に行い、当日は滞りなく運営できたか。
(3) 各行事の終了後は、生徒や職員からのアンケートなどを通して意見を吸い上げ、速やかに見直しを行い、来年度の改善につなげるようにする。	(3) 評価すべき点や改善すべき点を見出すことができたか。
(4) 適切に休養日を設けるとともに、定められた時間内で最大限の効果が上がるよう、活動内容を検討する。	(4) 活動時間を厳守し、けじめのある活動を行うことができたか。
(5) 活動の観察に加え、家庭との連携を密にすることで、生徒の状況や考えを理解し、有意義な部活動となるように支援する。	(5) 保護者の理解・協力のもとで活動を行い、意見や要望には誠実に対応できたか。
(6) ＨＲ担任や教科担任と連携を取り、生徒の生活状況や学習状況を把握し、学業にもしっかりと取り組めるよう支援する。	(6) 部活動と学習活動の両立ができるよう、自らを律しながら活動させることができたか。
(7) 全校体制でボランティア活動に取り組み、対外的なＰＲを行うと同時に、地域に対する感謝の気持ちを育む。	(7) ボランティア活動に積極的に取り組み、その活動から学ぶことはあったか。
(8) クラスや部活動といった集団での活動を通して、仲間意識を高め、集団に貢献しようとする態度を育てる。	(8) 集団の中で、互いの立場や考えを尊重して活動することができたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・新校舎建設工事による影響や感染症及び熱中症への対策の必要性から、従来の形態で行事を行うことが難しい状況の中、計画していたすべての学校行事を実施した。計画・実施にあたっては、生徒会と特別活動部担当教員との間で密に連携をとり、調整を進めた。新たな試みが必要となる行事がほとんどであったが、結果的には概ね生徒が満足できる行事を作り上げることができた。 ・それぞれの部活動において、限られた時間の中での密度の濃い活動のあり方を追求した結果、東海大会出場や全国大会出場のほか、各種大会や発表会において成果を上げた。 ・能登半島地震の義援金募集の取り組みを行った。取り組みの趣旨について保護者に対しても周知を図ったこともあり、２日間で20万円近くの協力を得た。	①行事の運営には柔軟に対応し、取り組む中で改善点を明らかにできたか。 ②部活動と学習活動の両立に全校体制で取り組むことができたか。 ③活動に関して広く広報を行い、生徒及び保護者に認識を深めてもらうことができたか。	[A] B C D A [B] C D A [B] C D

12　成	総　合　評　価
○岐山祭（文化祭と運動会）を始めとする生徒会主催行事において、概ね生徒の主体性を大切にして指導することができた。	

果・課題	○初めて岐阜メモリアルセンターを使用して実施した運動会を始め、新しい形での学校行事がほとんどであったが、概ね生徒に達成感や満足感を与えることができ、各行事の目的を達成することができた。 ○活動時間と活動場所の両方において厳しい状況にある部活動であるが、今年度も８割近くの　加入率があり、多くの生徒が積極的に部活動に取り組んだ。 ▲生徒会の取り組みとして例年行ってきた三者懇談時の募金活動やコンタクトレンズ空きケースの回収活動に今年度は取り組むことができなかった。	A　B　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・初めて岐阜メモリアルセンターで実施する球技大会や、仮校舎が展示会場となることが予想される文化祭など、依然として新たな形の学校行事が求められる。生徒会が全校生徒の意見をできるだけ反映させた形で企画を作り上げていけるよう、先を見通して適切に指導していく。

・部活動は生徒が安全に活動できることを第一に考え、引き続きコロナ感染や熱中症、活動中の事故などに対する注意を怠らないようにする。

・ボランティア活動への取り組みを強化し、ＨＰでも取り上げ、校内や外部への発信を行っていく。

3　評価する領域・分野	◇保健厚生「保健管理」「安全管理」
4　現状の分析	▲仮校舎移動のため何が起こるか予測不能。
5　学校の抱える課題	◇「保健管理」教室環境の変化　温度管理、換気 「安全管理」不安全状態の把握　美化活動
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校の保健管理体制及び環境衛生を保てる環境を整備し、疾病等の予防、早期発見・早期対応に努める意識の高揚を図ります。 ◇安全点検や命を守る訓練を通して、安全・防災に対する意識を高めるとともに実践力を育成し、事故防止の徹底を図ります。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 適切な健康保全計画により、日常の環境衛生の徹底を図ります。 (2) 委員会活動等を通じて、身近な環境衛生への関心を高めるとともに、省エネルギーに努めます。 (3) プレハブ校舎への安全な移動計画の作成をします。 (4) 大掃除時に安全点検を実施し、施設･設備の整備に努めます。 (5) 命を守る訓練や防災についての意識調査や講話などを防災教育と位置付け、ＬＨＲやＳＨＲ時に実施します。 (6) 学校諸活動時における事故防止には万全を尽くすように適切な指導助言を行います。	(1) 日常の健康維持活動において毎日確実に行われているかをチェックする。 (2) 冷暖房使用時の各クラスの温･湿度や、二酸化炭素の濃度測定状況を確認し、エアコンの正しい使用や暖房時の適正な換気がなされているかをチェックする。 (3) 校舎移動の際の行動観察および移動後の教室環境をチェックする。 (4) 不具合に対して速やかに対応する。 (5) 災害時の対応や現状の知識・意識をアンケートなどで調査し訓練の参加状況と合わせて評価する。 (6) 諸行事中に発生が予測される事故についての対応を事前に準備し周知徹底する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・「エアコンによる温度調節マニュアル」の作成 「空気調査」測定 教室換気指導 ・「命を守る訓練」での状態把握（全校生徒、職員） ・掃除分担見直し	①　教室環境はおおむね良好。感染症予防のための換気は不徹底であると思われる。 ②　全校生徒・職員参加はよかった。 ③　おおむね機能している。	A　[B]　C　D [A]　B　C　D A　[B]　C　D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○エアコン使用により教室環境管理はしやすくなった。 安全状態、不安全状態の把握ができた。 校内はおおむね良好な学習環境にある。 ▲「教室換気」が不十分である。 トイレ使用（清掃活動を含む）が不適切な場面があった。 掃除用具の不備が指摘された。	A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・感染症予防の視点から教室換気、手指消毒指導等をより一層呼びかける。
・「命を守る訓練」の工夫。
・掃除用具の拡充（教室用クリーナーは却下されました）

3　評価する領域・分野	◇探究
4　現状の分析	○普通科「人間探究の時間」、理数科の「理数」を始めとする探究的な取り組みを指導要領に合わせた体制整備と併せて進めてきた。 ▲普通科では従来の流れを２年間に再編している最中だが、個々の活動を進路実現に上手く繋げられていない。
5　学校の抱える課題	◇探究的な取り組みと各教科の学びの繋がりをどのように生徒に意識させ、主体的な自己実現へと繋げていくか。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇科学的な視点で問題を発見し解決していける力を培い、他者と協働し粘り強く取り組む姿勢を養います。 ◇外部機関と連携した教育活動を行い、キャリア教育や理数教育を推進します。 ◇人間探究の時間や各教科との連携を進め、蔵書の充実と利用を図ります。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)「人間探究の時間」、教科「理数」などを活用した探究的な活動を企画・運営し、主体的・協働的な取組で課題解決を目指し、結果をまとめ発表することで、論理的思考力やプレゼンテーション能力を養います。	(1) 取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度末に評価テストを実施します。
(2) 理数科対象の野外実習(フィールドワーク)や課題研究等での論文作成や発表を通して、実験・観察技能や科学的思考力、プレゼンテーション能力を養います。	(2) 取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度当初と年度末に評価テストと保護者アンケートを実施します。
(3) 課外の時間を活用した専門家や先端研究者との対談や、希望者を対象とした特別講座を企画･実施し、その結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。	(3) 取組ごとに参加者アンケートや自己評価を実施します。
(4) 外部機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や社会との関わりを考える取組を実施します。	(4) 参加者アンケート、自己評価、担当者による到達度評価を行います。
(5) 自然科学系部活動を中心に、大学や企業の研究者と連携した研究活動、岐阜市と連携した中学生対象の講座など理数教育の拠点校としての役割を果たします。	(5) 研究成果をまとめ、各種コンクールや全国規模の大会へ積極的に参加し、外部評価を受けます。
(6) 各教科での探究的な活動のための図書を充実させます。 ・「人間探究の時間」、教科「理数」を進める上で必要となる図書について、各学年担当者と連携を図り、蔵書の確認と新規購入を進めます。 ・各教科からのリクエストを新規購入に反映します。	(6) 「人間探究の時間」の担当者、各教科からの要望への対応及び新着図書の購入・紹介が遅滞なく行われているか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・普通科「人間探究の時間」について全校体制で取り組むと共に、連動させたリサーチゼミ、ツアー等を行った。 ・理科、数学科と共に理数科「理数探究基礎」、「理数探究」、「課題研究」を実施した。 ・学校誌「百々ヶ峰」について、発行時期と体制の見直しを行った。	①生徒自己評価（5段階満足度） 実習生と語る会 5.0 看護講座 5.0、AI講座 4.8、 教職4.7、プログラミング5.0 ②教科・分掌と協力して取組を進めることができたか ③図書業務を円滑に実施できたか	A [B] C D A [B] C D [A] B C D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○普通科の探究活動と連動させたリサーチゼミ、ツアー等により、特に２年生の研究室形態での調査活動を活発に行うことができた。 ▲１，２年生を通した各活動の繋がりが十分に生徒に認識させられていない。 ○「理数探究基礎」、「理数探究」の教科運営について理科、数学と連携して観点別評価のためのルーブリック等の整備を行った。 ○コロナ禍の中でも図書館の利用は進んでいる。図書委員もよく活動している。 ▲もっと図書委員・図書館の活躍の場を設ける。	A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・普通科１，２年生「人間探究の時間」の各活動を通して身に付ける力の明確化と、２年間を通した各活動や他教科との繋がりを明示すること。
・普通科、理数科それぞれの探究的な活動を生徒の進路実現にどのように繋げていくべきか、進路指導部と連携して検討していく。

3　評価する領域・分野	◇渉外
4　現状の分析	○ＰＴＡ執行委員会・常任委員会、補助教材選定委員会、同窓会常任理事会・理事会等の様々な場を通じて役員の方々から御意見をいただいている。 ▲ＰＴＡ役員相互の交流の機会が減っている。
5　学校の抱える課題	◇ＰＴＡ役員相互の交流の機会が減ったことで、役員が中心となってＰＴＡ活動することが困難である。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図ります。 ◇ＰＴＡ役員及び保護者相互のより良い人間関係の構築に努めます。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 家庭と学校との情報伝達を円滑にするためにＰＴＡ会誌を発行します	(1) 学校からの情報を伝えるとともに、保護者の活動の様子を紹介することができたか。
(2) ＰＴＡ役員と学校職員が協力して、ＰＴＡ総会及びＰＴＡ執行委員会を開催します。	(2) 学校職員と保護者との意思疎通が図れたか。
(3) ＰＴフォーラムをＰＴＡ役員中心に企画し、参加した保護者が有意義な時間を過ごすことができるよう工夫します。	(3) 保護者は満足したか。参加人数は増えたか。
(4) ＰＴＡ総会等のＰＴＡ活動をオンライン配信します。	(4) 保護者は満足したか。
(5) 県高Ｐ連総会・東海高Ｐ連総会・全国高Ｐ連大会への参加を通じて、役員相互の親睦を深めます。	(5) 参加した役員相互の親睦が深まったか。
(6) ＰＴＡ役員の活動の場を増やします。	(6) 参加した役員相互の親睦が深まったか。
(7) 各種活動に参加し有用な情報を得て、本校のＰＴＡ活動に還元します。	(7) 他校の取り組みや、講演会で得たことを本校の活動に生かせたか。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・ＰＴＡの取組や学校の様子がわかるＰＴＡ会誌を発行し、保護者に配付した。 ・ＰＴＡ総会、ＰＴフォーラムのリアル開催とオンライン配信を行った。 ・全国高Ｐ連宮城大会や県ＰＴフォーラム大会等各種大会に参加した。 ・同窓会常任理事会・理事会を開催した。 ・同窓会総会を再開した。	①　ＰＴＡ役員と連携できたか。 ②　同窓会役員と連携できたか。 ③　渉外担当者相互の連携ができたか。	A　[B]　C　D A　[B]　C　D [A]　B　C　D

12 成果・課題	○ＰＴフォーラムの後日配信を行い、当日都合のつかない保護者に視聴してもらうことができた。 ○すぐメールを利用して行事予定を保護者に知らせるシステムに変更したことで最新の情報を伝えることができるようになった。。 ○全国高Ｐ連宮城大会に６名が現地参加し、相互交流ができた。また、オンライン参加もできた。 ○同窓会総会をリアルに開催し、同窓生相互の交流ができた。 ▲構内に駐車場が確保できず、公共交通機関での来校をお願いせざるを得ない状況において、ＰＴフォーラムの現地参加人数が減少した。 ▲ＰＴＡ役員の相互交流の機会がまだ十分とはいえず、役員が主体的に活動することが困難である。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・校舎改築による様々な制約があるので、ＰＴＡ執行委員会等の外部会場実施を検討、計画する。
・ＰＴＡ総会、ＰＴフォーラム等の目的、意義を再確認し、校舎改築時におけるより良い実施方法を検討する。

3　評価する領域・分野	◇１学年
4　現状の分析	○入学当初は中学との環境の変化についていくことができず、悩む声も聞かれたが、現在は基本的な生活習慣を身につけ、学校生活を有意義に送っている生徒が多い。 ▲文理、科目選択のための進路研究を経て、志望分野は絞りつつあるが、具体的な志望校や目標数値までは設定できていない生徒が多い。
5　学校の抱える課題	◇自分自身の進路に関する情報の収集と目標の設定 ◇主体的に学習に取り組む姿勢を育むための一貫した指導
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇何事にも前向きに捉え実生活や実社会に活かせる資質や能力の育成に取り組みます。 ◇進路実現に向け、学習を軸にした生活習慣を確立させるとともに、モバイル機器に対する正しい知識と良識ある姿勢を育成します。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
⑴ 集団における自身の役割や立場を理解し、責任ある行動が取れるよう指導します。 ⑵ 課外活動に意欲的かつ積極的に取り組めるよう、特別活動部と連携して指導します。 ⑶ 礼儀正しく、明るく活力に溢れた学校の雰囲気づくりを目指して生徒指導部と連携し指導します。 ⑷ 最初が肝心であることから初期指導期間を有効に活用し、授業と家庭学習を中心とした学習習慣の確立について、学年団及び教科担任と連携して指導します。 ⑸ 自身の将来像を考える機会を定期的に設け、進路実現に向けた生活習慣の確立を目指して、進路指導部と連携して指導します。 ⑹ モバイル機器の適正な使用について、教務部、生徒指導部、情報科及び家庭と連携して指導します。	⑴ 年度末の自己評価や反省、担当職員による評価をもとに、達成状況を判断します。 ⑵ 日常生活におけるクラスの様子や、岐山祭、学年球技大会への取り組み状況を評価します。 ⑶ 来客者からの印象や評価を参考にします。 ⑷ 諸調査や面談を実施し、学習に対する意識や意欲、取り組み方により評価します。 ⑸ 課題の提出状況や、外部模試の結果などにより評価します。 ⑹ 日常生活における使用状況を観察するとともに、保護者懇談会等で家庭での様子を聞き取り評価します。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・課題テストや定期テスト、進研模試の結果等を分析・理解させ、毎日の学習習慣の大切さを考えさせる。 ・ＨＲ活動の時間、担任との面談等を通して、学習、授業、部活動の在り方、目的、意義を考えさせ、自分自身を振り返らせることで、改善を図る。	①各種テストの結果等を踏まえて、学習到達度を分析し、学習指導の成果を見る。 ②表情や行動など、普段との変化を細やかに観察する。 ③二者懇談、三者懇談で生徒と保護者の状況を把握する。	A [B] C D A [B] C D [A] B C D

12 成果・課題	○様々な変化に対応しながら、学校生活全般において落ち着いた態度で取り組むことができた。 ○各種行事が実施できる喜びを感じながら、充実した活動ができた。 ○モバイル機器について、授業内での活用やアンケートの回答など利用の機会が増え、活用の技術に向上が見られる。 ▲自分自身の進路を意識した上で、継続的な学習習慣を身に付けさせることの大切さを理解させる。モバイル機器の使用についても、不適切な使用が何度かあったため、今後もマナーを意識した使用の仕方について指導を継続する。	総　合　評　価 A [B] C D

13　来年度に向けての改善方策案

・各種テストを節目とし、結果を振り返り自分自身の課題を確認することで、学習意欲向上への有効な意識づけとするとともに、自身の将来像を思い描く機会を増やし、より積極的に取り組めるよう様々な場面で啓発を続けていく。

3　評価する領域・分野	◇２学年
4　現状の分析	○進路研究を進め、各自の目標を設定し、その達成に向けて学力伸長の意識が高まっている。日々の学習に、より意欲的に取り組む生徒が増えてきている。 ○各自の志望進路に関わる課外活動への積極的な参加を通して、具体的に語ることのできる経験を増やしている。 ▲外部模試等の結果に、学力面の成長が数字として表れていない。
5　学校の抱える課題	◇学校体制の急速かつ大きな様々な変化に、戸惑いを抱える生徒も少なからず存在する。変更に至る出発点や過程に主体的に関わるためには、もう少し時間的余裕が必要であったか。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学習習慣・生活習慣の質的向上を目指し、各自の目標に誠実に向き合い、着実に努力を続ける姿勢を育てます。 ◇自ら考え、意欲的に行動できる主体性を育てます。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 学年やクラスで生活や学習に向かう姿勢についての指導を行い進路指導部・生徒指導部とも連携し、生徒の規範意識を高め、基本的学習習慣・基本的生活習慣の質的向上を目指します。 (2) 学習に対して粘り強く考え、分からないところは、自ら調べたり質問したりして、「誠実に探究する習慣」を育てます。係や清掃、ボランティア、委員会活動、学年行事等を通じ、公共性や協調性、物事に誠実に取り組む心を養います。 (3) 文化祭や球技大会、修学旅行等の行事に取り組む中で、個々の存在を尊重しつつ、仲間を思いやる心を養います。 (4) 大学情報、学部・学科情報の収集に努めさせ、各自が自分に適切な大学を考察します。 (5) 行事の中で、生徒に企画・立案・運営を行わせることで、目標や目的を明確に持ち、達成に向けて何をすべきかを自ら考えて行動できる生徒を養います。	(1) 状況を観察し、定期的な調査も行いつつ、必要な指導を行い、状況の変化を踏まえて判断・評価する。 (2) 学習・探究活動への自主的・意欲的な取り組みを評価する。 (3) 行事に対して誠実な心や思いやりの心を持って取り組めているかを評価する。 (4) 生徒との懇談やアンケート調査により、達成感と成就感を判断する。 (5) 適切な進路情報を生徒に提供したうえで、懇談を通じて情報交換し、進路目標と実際の取り組みが適切か判断する。 (6) それぞれの活動や行事に対して、生徒が自ら考え工夫する方向で活動させ、実践状況を評価する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・生徒の学習への取り組み状況や様々なテストの結果を分析し、各教科で具体的な対策を講じた。 ・探究活動や様々なテーマの課外活動を通して、各自の志望進路につながる、具体的経験の機会提供に努めた。 ・生徒情報の共有を丁寧に行い、問題や悩みを抱えた生徒に対し、担任はもちろん教育相談や生徒指導にも関わってもらい、きめ細やかで迅速な対応を心がけた。	①　生徒の実態に指導方法・内容が適切であったか。 ②　生徒の興味関心を惹きつける適切なテーマであったか。 ③　組織的かつ迅速に生徒対応に取り組めたか。	A　[B]　C　D A　[B]　C　D [A]　B　C　D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○丁寧な情報共有により、生徒の悩みや問題を早い段階でつかみ、連携を取りながらきめ細やかに対応できている。 ○探究の授業を柱に、様々な課外活動の機会を提供することで、各自の志望進路につながる、具体的経験の蓄積につながっている。 ▲各教科で、学習成果の伸長のための実践が行われているが、現在のところ、目に見える結果としてはなかなか表れてきていない。	A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・生徒の学習への取り組みや習得状況に応じた、適切で効果的な教科指導を実施し、確実な結果に結び付けたい。それによる手応えや達成感が、より主体的で意欲的な取り組みにつながると考える。さらに、各自の学習面の取り組みと成績の「自己分析」、「目標設定」、到達に向けての「プランニング」の実践のため、適切な情報提供による進路指導と、面談等による精神的サポートでしっかり支えていきたい。

3　評価する領域・分野	◇３学年
4　現状の分析	○進路希望調査（学習状況リサーチ）より、学習に対する意欲を持ち続け、進路実現に向けての意識が高く、良好な姿勢で臨んでいる。 ▲学習の取り組みにおいて、積極性にやや欠ける部分や、自己の課題に対する取り組みが甘い部分がある。
5　学校の抱える課題	◇自己を分析し、将来に向けて必要な資質を自ら付けさせたいが、積極性に欠ける生徒が多く見られ、自主性を尊重するのは時期早々だったと思われる。もっと生徒と向き合い、個々の生徒に必要な方向性を指導する必要性を検証する必要がある。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の進路目標の実現と社会に貢献できる人材の育成に努めます。 ◇生命を尊重する心を育み、人権尊重の意識を醸成します。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 進路実現に向けて確かな学力を身に付けられるよう学習指導を強化します。 (2) 校外模試や課題実力テスト等を通じて、生徒個々の能力・適性を的確に把握・分析し、生徒の進路目標の実現に努めます。 (3) 生徒の選択肢の拡大や視野を広げるため、適切な情報収集と情報提供に努めます。 (4) あらゆる機会を通じて生徒と接する時間を増やし、生徒理解に努め悩みや不安の早期発見に心掛けるとともに、基本的生活習慣を身に付けさせます。 (5) 職員全体でいじめは絶対に許さないという強い姿勢でのぞみ、生徒に対して公正かつ公平な態度を示し、風通しの良い、個を尊重する心を育成します。	(1) 校内でのテスト、外部模試の結果により評価します。 (2) 生徒個人が幅広い視野のもとに進路設計ができ、能力が伸長し、自らが納得いく進路実現ができたか判断します。 (3) 外部講師の講演を聞き、これまでの価値観を大きく広げ、新しい視野のもと進路計画ができたか判断します。 (4) 二者懇談、保護者懇談等で情報を共有できたかで評価します。 (5) 授業規律の確率、場に応じた挨拶、端正な身だしなみを校内、保護者、関係機関の連携により、身に付けているか判断します。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・教育相談週間に限らず、担任が進路懇談をするなどして信頼関係の構築に努めた。 ・模試の結果を生徒に提示し、進路への関心を高め、意識をもたせる指導に努めた。 ・自己分析を通して、自己の進路に向き合い、主体的に学習・活動する場を設けた。	①懇談を通して生徒の状態把握と進路希望決定を行えた。 ②得られた情報をもとに、積極的かつ継続的に学習に取り組むことができた。 ③自己の進路への関心が深まり、主体的に行動する生徒が増えた。	[A]　B　C　D A　[B]　C　D A　[B]　C　D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○場面に応じた行動がとれ、責任感や人権意識が高まってきた。 ○自らの将来に繋がる大学を模索し、情報を集め、担任からのアドバイスに耳を傾け、進路目標を定めた。 ○進路への意識は高くなり、学習時間も確保できた。受験へ向かう本気の姿勢が見られ、自ら進んで取り組むことができるようになった。 ▲何事にも積極性が生まれて、自ら考えて他者と協働しようとする心がなお育つとよい。	A　[B]　C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・受験指導において、面談等を繰り返しながら一人ひとりの把握に努める。模擬試験を有効に活用し、個々の生徒に合った適切な指導を行う。進路指導部と連携し、生徒・保護者が納得できるような進路選択ができるように、大学・入試の情報を生徒に提供し、進路実現につなげる。妥協による進路決定ではなく、最後まで諦めない受験指導を目指す。

・大学受験に向けた意識を高揚させるための方策を、時代の変化と生徒の状況を踏まえながら再考する必要がある。また、生徒の積極性が増すような指導の構築を図る。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和６年２月５日

【意見・要望・評価等】

（１）学校経営全般について

意見１：（生徒・保護者等対象のアンケートを踏まえて）「考えて行動できる生徒を育てる」という意識が伝わってくる。アンケートの項目で「本校に入学できてよかった」という項目のポイントが上がっている。生徒が自分で考えるということが浸透してきており、充実した学校生活を送れていることが読み取れ、喜ばしいことである。

（２）各分掌について

【教務部】

意見１：授業態度について、他教科の勉強したり集中できなかったりする生徒がいるとのことだが、授業内容に興味をもたせるともに、「自分のこと」として捉えさせたい。それが出来れば生徒も変わるはずである。

意見２：近年、サイエンスやテクノロジーだけではどうにもならないことが起こっている。生徒指導では倫理観をやっているが、歴史観はどこでいくのか。例えば数学の公式や法則も、背景を知っているかどうかで生徒に与える影響が異なる。授業の中では、公式や法則の表面だけではなく、それができた背景などの歴史観を盛り込んでいくとよい。

【生徒指導部】

意見１：頭髪・化粧等の校則廃止について、大学でも看護実習の際には、危険防止や衛生面からマスカラや茶髪を禁止することもある。高校でも安全面や衛生面での指導をする必要はある。

意見２：スマートフォンの利用について、生徒は大人が思っているよりもＴＰＯを考えて行動していると思われる。

【進路指導部】

意見１：面接について、ロボットのような画一的な回答が多い。自分の言葉で生き生きと伝えようとする態度や応用力が大切である。

意見２：学生の小論文で新聞記事について書かせても、社会への関心がないため、新聞記事以上の発展がない。忙しさからか新聞を読まない高校生が多いのも残念である。

【探究部】

意見１：「理数探究基礎」の改訂が行われ、全国の先生からの要望で統計が厚くなる。普通科の生徒たちの探究の発表を見たがやはりそこが弱い。アナライザーを呼べば。どのようなデータをとって、どのような分析をしたらいいかを教えていただける。

意見２：（２年生普通科探究活動発表会について）発表はまず相手に伝わることが大切であるが、身振り手振りを交えるなどボディランゲージを用いた発表は伝わりやすかった。見学していた１年生にも受け継がれていくとよい。楽しみにしている。一方で、質問時間に手を挙げようとしない生徒も多く、主体性という観点で課題である。

意見３：探究のテーマは生徒たち自身で決めているようだが、大人が各テーマへの新しい切り口を教えてあげられるとよい。

（３）その他、本校の取組について

〇以下の２点について確認し、合意を得られた。

・スマートフォンの使用について生徒にルールを作らせていく。ルールができたら、そのルールに基づき、使用を認めていく。

・頭髪・化粧・ピアスについて検討を続けるが、以上に関しての校則は廃止の方向で進めていく。